古文の動詞 活用表（穴うめ）

なまえ：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

活用の種類	例の語	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	主な語
四段活用	書く	書							多くの動詞
上一段活用	見る	（なし）							見る・着る・似る・煮る・居る など（「ひいきにみゐる」で覚える）
上二段活用	起く	起							起く・過ぐ・恋ふ・恨む・老ゆ など
下一段活用	蹴る	（なし）							蹴る だけ
下二段活用	受く	受							受く・見ゆ・捨つ・得・寝・経 など
カ行変格活用	来	（なし）							来 だけ
サ行変格活用	す	（なし）							す・おはす（「〜す」の複合語も）
ナ行変格活用	死ぬ	死							死ぬ・往ぬ（去ぬ）
ラ行変格活用	あり	あ							あり・をり・侍り・いまそかり

■ 活用の種類の見分け方

①数が少ない種類（上一段・下一段・カ変・サ変・ナ変・ラ変）は、語を覚えておく。上一段は「ひいきにみゐる」（干る・射る・鋳る・着る・似る・煮る・見る・居る・率ゐる・用ゐる）

②それ以外は、打消の「ず」を付けて、すぐ上の音で見分ける：ア段（書か-ず）→ 四段活用／イ段（起き-ず）→ 上二段活用／エ段（受け-ず）→ 下二段活用

③「得・寝・経」は1字の下二段活用（語幹と語尾の区別が無い）。「蹴る」だけが下一段活用。